

Practicing  
Leadership  
and Entrepreneurship

# 僕たちは 「会社」でどこまで できるのか？

起業家のように企業で働く 実践編

小杉俊哉・塩見哲志

TOSHIYA KOSUGI SATOSHI SHIOMI

## 「はじめに」のはじめに

小杉俊哉

企業に勤務することを宮仕え、と誰が言ったのだろうか？

業務命令は絶対に従わなければならない、と誰が決めたのだろうか？

企業では個人の指向など反映されない、と誰が知ったかぶりをしているのだろうか？

給料をもらうということは我慢の対価としてだ、と誰がうそぶいているのだろうか？

そうやって、自分の可能性を勝手に閉ざし、そして人にもそうさせてしまっている人の罪は重い。

私は、16年間多様な会社でサラリーマンをやり、その後、17年間実に様々な会社でコンサルティングや研修をやってきた。そして、どの業種のどの企業にも、規模の大小にも関係なく、その数は少なくても、その比率は低くても、地位に関係なく、起業家のように事業をつくりだし、自律的に働く人たちが必ずいることを知った。

あなたが、それを諦めていたり、または、会社に愛想を尽かして転職しようとしていたり、独立しようとしていたら、そのままに拙書『起業家のように企業で働く』（クロスメディア・パブリッシング）とこの本を手にとってほしい。

いまの会社で、やれること、やっておくべきことは、まだたくさんある。会社を見限るのはそれからでも遅くない。

もちろん、会社で100パーセント自分の思い通りやれる、などということはないだろう。でも、会社という器を使ってひとりではやれないことを実現することができる。

どこまでやれるかは、「会社」や上司や、ましてや第三者が決めているのではない。あくまで、あなた自身なんだということだ。そのことをひとりでも多くの人に気づいてほしくて、この本を世に送り出そうと思ったのだ。

## はじめに

塩見哲志

「君はただ会社から言われたとおりに働き続けるのか？」

この問いの答えは人それぞれで異なると思います。「はい」でも「いいえ」でも、それは私たち自身が選択した答えであり人生です。

ただ、この問いに「はい」と答えるサラリーマンが多いことはおそらく現実です。20代後半以降のサラリーマンの多くが、いつのまにか自分の可能性を追求することをやめ「成長」ではなく「横ばい」の人生を選択していると思います。

複雑なルールに縛られているサラリーマン社会の中で結果を出すことは難しいと感じたのか、それとも成長することに疲れてしまったのか、多くのサラリーマンが横ばいの人生を選択しています。

学生時代や新入社員るときには、夢や希望を信じて自分に正直に生きていても、いつのまにか自己主張することをやめ、自分を殺して生きてしまっています。しかし、サラリーマン社会には横ばいの人生を選択している人がたくさんいるため、目立つことはありません。

ん。

サラリーマン人生で一番長く過ごすであろう、働いている時間を、横ばいの人生のために使つてはもったいないと思います。

一方で、「企業では自分のやりたいことなんかできやしないよ」と言つて企業を辞める人はたくさんいるでしょう。私と同じ年代の20代後半から30代前半のサラリーマンは、まさに転職活動の最中なのかもしれません。

企業で働いているとやりたいことはできないのかというそれは違うと思います。自分のやりたいことを新しいビジネスモデルとして企業内で立ち上げているサラリーマンは全国を探せばたくさんいます。また、企業にはありとあらゆる部署が存在するので、別の会社に行かなくてもある程度の仕事は社内ですべてできてしまいます。

本書では、ただ会社から言われたとおりに働いていた私が、会社でどこまでできるのか試行錯誤しながら模索した経験として、ベンチャー支援の新規事業として立ち上げた「モーニングピッチ」の立ち上げを例に説明していきます。

「会社」は自分の人生にレバレッジをかけることのできるすばらしい資産です。それに気づいた私の経験と考えをお伝えすることで、会社で働くことのやりがいや生きがいを見いだすきっかけとしていただければと思います。

僕たちは「会社」でどこまでできるのか？

CONTENTS

「はじめに」はじめに	小杉俊哉	3
はじめに	塩見哲志	5

CHAPTER 0

# モーニングピッチという イノベーション

我が国におけるベンチャーを巡る環境  
モーニングピッチとは何か？

25

15

CHAPTER 1

# サラリーマンが 自律する時代

01 自分の人生は自分で決める

30

CHAPTER 2

# 起業家のように 仕事をするうえで やるべきこと

02 企業の決定に振り回されない

36

03 持論をもつ

41

04 健全な動機をもつ

48

05 解説 サラリーマンが自律する時代

53

06 ビジネスの本質を理解する

66

07 自分のフィールドを広げる

71

08 覚悟とは自分を信じること

77

09 解説 起業家のように仕事を  
するうえでやるべきこと

82

CHAPTER 3

大きな仕事は  
企業でこそできる

- 10 企業で働く上での最大の醍醐味とは？ 96
- 11 オープン・イノベーションの威力 103
- 12 志が人を繋げる 112
- 13 どのように「会社」を巻き込んでいったのか 119
- 14 解説 大きな仕事は企業でこそできる 128

CHAPTER 4

ビジネスモデルを  
創りだす

- 15 コンセプトを生み出す 140
- 16 情報の質にこだわる 144

CHAPTER 5

企業を巻き込むために  
必要なこと

- 17 解説 ビジネスモデルを創りだす 148
- 18 出る杭になる 154
- 19 孤独と向き合う 160
- 20 収益で企業に貢献する 164
- 21 若気の至りで終わらせない 169
- 22 解説 企業を巻き込むために必要なこと 177

あとがき

小杉俊哉

「あとがき」のあとがき

塩見哲志

185

190

